

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

2. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立気仙沼中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 988-0073
宮城県気仙沼市笹が陣4番1号

E-mail : : kesenuma-jh@blue.ocn.ne.jp

Website : http://www15.ocn.ne.jp/~kechu/

児童生徒数：男子 164名 女子 146名 合計 310名

児童・生徒の年齢 12歳～15歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 持続発展教育 (ESD) (国際理解) 世界遺産 平和・人権 (環境) 気候変動
生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 (そのほか) (ボランティア活動)
- そのほか ()

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付

資料をつけていただいても構いません)。

ボランティア活動～東日本大震災後、「今」私たちにできること～

○ 目的

2011年3月11日の東日本大震災により、甚大な被害を受けた。本校は震災当日から体育館のみならず、教室も避難所となり、新年度は旧校舎からスタートした。また、全校生徒の約半分は家屋を流失したり、家族を失うなどの直接被害を受けた。そんな状況の中で、同じ校舎の中に生徒と避難者が共生することになった。

避難者のために自分たちにできることを考えさせ、行動することは、お互いの気持ちを共有し合い、気仙沼の将来について見直すいい機会となると考える。この活動を通し、自分の生き方を見つめ、生き続けていける将来をどうつくっていくのかを模索させたい。

1 活動内容

(1) ボランティア活動の意義について考えよう。

① オリエンテーションを行い、ボランティア活動について学んだ。

(2) 社会に貢献するための活動について考えよう。

① 震災直後に自分たちが行ったボランティアを振り返らせ、活動をする上での心構えや実践することが難しかったことなどをまとめさせた。

(3) 「今」私たちにできることを計画しよう。

① 校舎内に避難している方々のためにできることを個々に考えさせて、同じような考えをもっている生徒で班をつくった。

② 班ごとに、長期的なスパンで計画を立てさせ、具体的な活動内容や活動場所、時間帯、準備するものなどを考えた。

＝計画を立てる上での注意点＝

○ 単位時間（50分）で準備から片づけまでできるように考える。

○ 避難している方々に迷惑をかけないような活動を考える。

○ 費用がかかるものは先生に相談する。

(4) ボランティア活動を実践しよう。

例・お年寄りの方々に肩もみをしてあげたい。

・避難場所（体育館や廊下など）や自転車のそうじをしてあげたい。

・いろいろな話をしてあげたり、聞いてあげたい。

・新聞をつくって掲示し、学校生活の様子を教えてあげたい。

・クッキーを作って、メッセージカードとともにプレゼントしたい。

・ダンスを披露して、元気づけてあげたい。 など

(5) 活動を通して、感じたことをまとめて発表しよう。

① 班ごとに活動内容や感想、今後も継続して活動していきたいことなどを模造紙にまとめた。

② 学年全体で発表し合い、他の班の発表を聞くことで活動内容を共有することができた。

